

作した。

本測定装置を用いることによつて、不規則に流動している融体中においても、粘度を瞬間的・連続的に精度良く測定することが可能である。また、化学反応などに伴う融体の粘度変化および外乱の同時迅速測定が可能であり、それらの測定を通して反応の進行状況、反応生成物の動的挙動などに関する情報が得られるものと考えられる。

おわりに本研究は研究費の一部を文部省科学研究補助

金（試験研究 2）によつて行われたことを記して感謝の意を表します。

文 献

- 1) 川田裕郎: 改訂 粘度, 計量管理技術双書(1) (1980), p. 139 [コロナ社]
- 2) 杉本 博, 上田達夫: センサ技術, 1 (1981), p. 55
- 3) 熔融塩物性表 (熔融塩委員会編) (1963), p. 229, p. 236 [化学同人]

コ ラ ム

他産業における計装技術者集団

日本鉄鋼協会共同研究会計測部会は、会員各社の計測・制御に関する技術力向上のための研究会であり、

鉄鋼プロセスの近代化のため長年貢献してきた歴史をもっているが、他産業においても以下のような活動を行つている。(出典: 計装 1983 年 2 月)

	(石油学会) 計装分科会	(紙パルプ技術協会) 自動化委員会	計装研究会	(プロセス計装制御 技術協会) IPC	日本計装工学会
設 立	昭和 48 年	昭和 43 年	昭和 31 年	昭和 51 年	昭和 55 年
主な目的・特色	レベル向上 規格統一	レベル向上	レベル向上 地域活動	標準化	社会的地位向上
構成メンバー	ユーザ エンジニアリング会社 メーカ	ユーザ	各種ユーザ メーカ 学者	エンジニアリング会社	計装工事会社

(新日本製鉄(株)電気計装技術部 福田武幸)